

総務環境常任委員会会議録

- 1 本委員会の開催日時は次のとおりである。
令和6年9月9日（月）午後1時05分
- 2 本委員会の出席委員は次のとおりである。

委員長	今吉 直樹 君	副委員長	久木田 大和 君
委員	植山 太介 君	委員	竹下 智行 君
委員	川窪 幸治 君	委員	鈴木 てるみ 君
委員	阿多 己清 君	委員	仮屋 国治 君
- 3 本委員会の欠席委員は次のとおりである。
委員 前川原 正人 君
- 4 委員外議員の出席は次のとおりである。
なし
- 5 本委員会に出席した説明員は次のとおりである。

企画部長	藤崎 勝清 君	地域政策課長	宮永 幸一 君
地域政策課主幹	美坂 雅俊 君	地域政策課地域政策グループサブリーダー	有馬 義浩 君
- 6 本委員会に出席した陳情説明者は次のとおりである。
なし
- 7 本委員会の書記は次のとおりである。
書記 徳丸 慎一 君
- 8 本委員会の所管事務調査は次のとおりである。
所管事務調査 地域公共交通の实地調査について
- 9 本委員会の概要は次のとおりである。
「開会 午後 1時05分」

○委員長（今吉直樹君）

ただいまから総務環境常任委員会を開会します。本日は、開会中の所管事務調査として、地域公共交通の实地調査を行います。まず、室内調査として執行部の説明後、質疑応答を行い、そのあと、別紙の行程表により現地調査を実施します。帰庁後、委員間討議を行います。ここで委員の皆様にお諮りします。本日の会議は御手元に配付しました次第書に基づいて進めていきたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。

〔「はい」と言う声あり〕

それではそのようにさせていただきます。

△ 所管事務調査 地域公共交通の实地調査について

○委員長（今吉直樹君）

まず初めに執行部の説明を求めます。

○企画部長（藤崎勝清君）

本日は、实地調査の機会を設けていただき深く感謝申し上げます。本市におきましては、地域公共交通計画に基づき、様々な課題に対して調査・研究とともに、はやと循環ワゴンやきりしまMワゴンなど新たな取組を進めているところです。このような中、公共交通にかかるニーズは多岐に渡り、利用者の減少や運転手の確保など需要に対して供給側となる事業者においては、大変厳しい環境下にはありますが、引き続き課題の解決に向けて努力してまいりたいと考えています。今回の調査を通じまして、改めてご意見・感想をいただければと思います。

○地域政策課長（宮永幸一君）

行程につきましてご説明いたします。本日は、市街地巡回バスと路線バス、きりしまMワゴン、ふれあいバスに実際に乗車いただきます。詳細は、別紙「所管事務調査実地調査」をご覧ください。この後、午後1時20分には、市役所前のバス停に移動していただき、午後1時29分発の市街地循環バスに乗車していただきます。各交通機関の現状につきましては、それぞれ現地等でご説明いたします。また、資料といたしまして、本日乗車いたします市街地循環バス・路線バス・ふれあいバスの時刻表、きりしまMワゴンのパンフレット等をお配りしております。お時間があられるときにご確認ください。

○委員長（今吉直樹君）

ただいま執行部の説明が終わりました。これより執行部に対する質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と言う声あり〕

ないようですのでこれで執行部に対する質疑を終わります。それでは、実地調査を行いますので市役所庁舎側バス停まで移動をお願いします。ここでしばらく休憩します。

△ 実地調査（地域公共交通の実地調査について）

「休 憩 午後 1時08分」

「再 開 午後 4時15分」

○委員長（今吉直樹君）

休憩前に引き続き会議を再開します。実地調査お疲れさまでした。委員間討議に入ります。実地調査を踏まえ、委員の皆様から御意見がございましたら御発言をお願いいたします。

○委員（川窪幸治君）

今日、実地調査をして、乗せていただき、それぞれの交通機関に実車したわけなんですけれど、それぞれに、時刻表とか、乗られる方の事情というのもあると思うんですけど、それぞれの交通機関の決められた理由付けとかひもづけとか、何かそういうのをもう少し、聞いてみたくなるところでありました。今日も下りてくるときにも話もしましたけれども、この今の時間のバスが本当に利用者がいるのかいないのか、別なところに行ったほうが、走ったほうが利便性が高いのかというようなところも非常に何かこう乗ってみて初めて分かったような気がします。なので、もっと何か、今回の実地調査ではなくて継続的にまだこういういろんな調査のほうが必要じゃないかなというふうに感じたところでした。

○委員（植山太介君）

今回いろいろ乗せていただきまして、住民の方の移動手段ということでのバス等でしたけれども、いろいろ乗せていただきまして、思ったより乗ってる便もあったり、逆にやはり乗っていないんだなという便もあつたように感じました。どこのルートを通るか、あと時刻、ここというのは年々変わってくるところだと思います。今、現に調査をしながら、随時、変更計画をかけてる。ここは、定期的に細かく見ていく、今後も見えていく必要があるなというのを感じたところが1点でした。あと、きりしまMワゴンで申しますと、今回は溝辺地区のMワゴンに乗車させていただきましたけれども、溝辺地区は徐々に広がりつつあると。市街地、隼人のほうでは、もう予約もなかなかとれないぐらい多いと、とても市民の方から人気があると。市民の方の中には便を増やしてくれとか、休みをとらずに、回ってくれというような声もあると。しかし、委託を受けてるドライバーさんの話でいきますと、確実に、今までそこを担っていたタクシー会社にとっては少なからず影響が出ているという生の声でありましたので、あまりその市民の利便性というところと、今までされてこられた民間の民業圧迫、ここはちょっと、しっかりと考えて取り組んでいく必要があると感じたところ

です。今後、今の在り方も、もう一度しっかり民間と話し合っ、お互いがウィン・ウインの関係になるようなことに努めていただきたいと思いますと申し添えておきます。

○委員（竹下智行君）

市街地循環バスのほうでは、霧島市役所のほうから乗ったんですけども、国分山形屋前だったですかね、乗られてくる方、杖をつかれて上がってこられましたけど、なかなかこちらのほうに低床のバスが回ってくるというのはないのかもしれないけれども、なかなか、古いバスが、こちらのほうは、バスとして使われてるんだなというのを感じたところでした。今日たまたま、国分駅前のほうから何人か乗ってこられて、もう最後の1人も、危ないこと、乗り損ねるような状態もあって、自分たちが声かけて運転手も気づくような場面がありましたけれど、そういったところも意外とこういうことってあり得るのかなとも思いながら、運転される方も、ちょっとそこあたりのこともしっかりと配慮する必要があるのかなというのを感じたところでした。霧島市医師会医療センターのところでは、ちょうど降りるときに、たまたま足を滑らして転んだ方もいらっしゃいましたけれど、やはりここあたりのバスの乗り降りというところは非常に低床バスでなければ、こういうことってというのは起こり得るなということを感じたところで、そこあたりの、今後、障がい者の方にも配慮したバスがあればなというふうなことを感じたところでした。

○委員（鈴木てるみ君）

Mワゴンに乗ったときに運転手からお話をお伺いして、やはりMワゴンが増えると民営圧迫でタクシー業界はもう潰れてしまうというようなことは確かにおっしゃってました。でも、高齢者の方が年金の中から毎回毎回タクシーというのは本当に大変ではないかなと思いますので、そこら辺のタクシー会社を圧迫しないMワゴンの運営の仕方というのは、やはりこれからちょっと研究していただかないといけないのではないかなというふうに思いました。それで、Mワゴンを現在、利用している人たちが、最初は友達にも教えようと言ってたけれども、あんまり利用する人が増えてしまうと自分たちが利用できなくなってしまうからもう教えないでおこうというふうに変ってきたというのも、知ってる人だけ得をして知らない人たちは不便な思いをするというのはやはり不公平かなと思いましたので、そこら辺もちょっと疑問を感じたところです。そこもちょっと、課題解決ができればなというふうに思いました。でも、すごく組合せて行けば、もう免許返納した人たちも、やっぱり市民の足として、便利に使えるものではないかなというのを感じたところです。

○委員（仮屋国治君）

いろいろまた執行部のほうと確認したいことがいっぱい出てきたなという思いです。最後のふれあいバスにすれば、始発から終電まで私たちがいないと1人しかいなかった、200円であれを走らせてるんだということを思うと、本当に何を意図してこういう時間設定ができてるんだろうかなというところを、この路線に限らず、まずは確認をしたいなと思ったのが一つ。それと、Mワゴンに関しては、民営圧迫の点もありますけれども、委託料の配分がどのようになっているのかなというところをまた聞いてみたいと思いましたし、あと、循環バスですか。大型バスを走らせる必要があるのかなとか思いながら冷房も効いてないし、霧島神宮アクセスバスも大型バスなんですけれども、何でマイクロじゃないのかなとか、その辺のところもいろいろ疑問に思ったところがありました。できることならもう一度確認を含めて、所管事務調査を組んでいただければと思います。

○委員（阿多己清君）

今日は四つのバス類を乗りましたが、循環バスとか路線バスは、時間帯にもあったのでしょうけれども、乗ってくるなど、乗客がいるなという思いもしました。Mワゴンについては予約制ですので、ある程度、乗客がいるのかなと。問題はふれあいバスだろうと思います。今、仮屋委員も言われましたけれども、同じような気持ちです。時間帯とかコースとかそういうのを、一度考える必要もあるのかなという思いもいたしました。そして、きりしまMワゴンの今回は空港、溝辺方面のバスを利用しましたが、バス停が空港、1番国際線の外れだったなど、ここは当局がいろいろ調整をして、もうここしか駄目だったというような話も聞きましたけれど、やはりお客さん

の気持ちを思えばちょっとでも向こうの国内線のほうに寄せたほうがいいのかなどという思いをしました。今後の改善点かなというところでは。

○副委員長（久木田大和君）

今回、バスからMワゴン等に乗らせていただいた中で、交通手段としての路線バス等の運行の場合と、あと高齢者であったり障がい者であったり交通手段を持たない方々に対しての支援というところの二つの面で考えたときに、どちらかに偏ってもいけないんですけども、今回、Mワゴンに関しては、ある程度利便性というか自由がきく形なのかなとは思いますが、それ以外のところという、やはり、交通弱者の方々にとっては、買物であったり病院であったりそういったところに、適切な時間帯に行けなかったりですか、そういったところがやはりどうしてもあるのかなというところで、先ほどほかの委員でもありましたけれども、時間帯であったりとか、路線の組み方であったりとかそういったところについては、また執行部に確認をしながら、市民の方々の利便性が高い交通手段となるように検討を重ねていければいいのかなというふうに感じました。

○委員長（今吉直樹君）

ほかにございませんでしょうか。

〔「なし」と言う声あり〕

ないようですので、これで委員間討議を終わります。次に所管事務調査に係る委員長報告について協議をいたします。本日の所管事務調査は、実地調査がメインでありましたが、今回の委員長報告をどのように扱うか、皆様から御意見を頂きたいと思えます。委員長報告をするしないという選択になるんですけど、するのか、委員長報告を必要としないのか、いかがでしょうか。今の意見は非常に伝えていきたい部分もあるのかなとは思いました。実地調査自体はもう、すぐ終わってしまうんですけど、文章としては。今回の調査を受けて、さらに踏み込んで、執行部の見解とか、提案をこっちからもするということがよろしいですか。

〔「はい」と言う声あり〕

委員長報告は今回は実施しないということで、進めたいと思えます。最後のその他になりますけれど、委員の皆様から何かその他でございませうか。

〔「なし」と言う声あり〕

ありませんので、以上で、本日の総務環境常任委員会を閉会したいと思います。

「閉 会 午後 4時28分」

以上、本委員会の概要と相違ないことを認め、ここに署名する。

委員長 今吉 直樹